



LTC ロケ対応における新型コロナウイルス感染症対策

ロケ受け入れ側 感染予防ガイドライン

&

撮影隊側 感染予防マニュアル

2021年1月20日作成 Ver. 3

一般社団法人ロケツーリズム協議会

ロケ受け入れ側 感染予防対策ガイドライン

はじめに

地域及び関連施設はロケ隊とロケサポートの両者が新型コロナ感染症対策を十分に講じたうえで撮影を受け入れることが大切です。このガイドラインはロケ受け入れ側からの「ロケ対応における新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドライン」を作成しました。

このガイドラインは政府の「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」において示されたものを、一般社団法人ロケツーリズム協議会の会員が地域及び施設での撮影対応における新型コロナウイルス感染症対策として実施すべき基本事項を整理したものです。

《撮影における基本的な考え方》

ロケ隊が新型コロナウイルス感染症防止対策を講じていることを確認して撮影を受け入れる。

- 1.密閉空間
- 2.密集場所
- 3.密接環境

上記「3密」は感染拡大リスクが高いと考えられるため、これらを回避することで、自ら感染を予防し、他人に感染させないようにガイドラインを記載しています。撮影場所では、「安心・安全」を第一に配慮し、地域がロケ隊の受入を円滑に行えるよう地域のルールを別途定めてください。

①撮影のお問合せ時 ②ロケハン来訪時 ③撮影時 ④感染者発生時

①撮影お問合せ時

◆問合せヒアリングシートによる確認

- ・ヒアリングシート記入時に「来訪人数」「来訪車両台数」「滞在日数」を確認する。
- ・制作会社の感染予防対策ガイドラインの提示を受ける。
- ・マスク・消毒液等の感染予防対策に関する備品は、制作者側で準備してもらう。

◆感染予防対策の確認表

- ・一般社団法人ロケツーリズム協議会「新型コロナウイルス感染症予防対策確認表」の提出を依頼して、内容を確認した上で撮影場所の管理者への協力依頼を行う。
- ・ロケ隊の撮影 14 日前の行動記録・撮影期間中の体調記録の閲覧を求める。
- ・ロケ責任者の緊急連絡先や不測の事態を想定して感染予防のホットラインを設ける。

◆周知徹底

- ・事前に地域の保健所と感染予防対策の確認を行う。
- ・速やかに保健所との連携が図れるよう、所轄の保健所との連絡体制を整える。
- ・撮影中に感染者や感染が疑われる者が発生した場合に整え、保健所の連絡先をロケ責任者と共有する。

②ロケハン来訪時

◆事前確認

- ・来訪方法(自動車・電車・飛行機)と現地での移動方法を確認する。
- ・車両にて来訪される場合は事前に駐車場所や徒歩移動の有無を確認する。

◆ロケハン案内時

- ・ロケ地案内時は2メートルの社会的距離を確保して同行する。
- ・ロケハン移動の車両は移動中の車内換気に務める。
- ・食事時間にロケハン打ち合わせをする場合、開放感のある飲食店を探すなど社会的距離を保てる場所での飲食を行うなど細心の注意を払い感染予防に努める。

◆撮影当日に向けての確認事項

- ・キャスト、スタッフ、関係者含めて撮影日來訪人数を正確に共有してもらう。
- ・エキストラ手配の有無を確認（人数、待機時間等）する。

③撮影対応時

◆屋内での撮影に関して

- ・施設等の屋内での撮影においては、撮影関係者の人数は必要最小限に限定する。
- ・ロケ隊の人数は、政府が定めるイベント開催の規定人数までとする。
- ・撮影後は、撮影場所の管理者と確認して、必要とされる場合はロケ隊側の責任において、消毒を行う。

◆現地移動に関して

- ・車両での移動に関しては、車内の消毒を適時行う。
- ・車両乗車時には、マスクを着用し、乗車人数を最小限にとどめ、換気を行いながら移動する。
- ・公共の交通機関を利用する場合は事前に共有するよう確認する。
- ・複数個所での撮影の場合、移動を時間差で行う。
- ・通勤路、通学路として混雑が予想される場所の該当時間は避ける。

◆ロケサポートに関して

- ・ロケ隊と接触する場合は手指の消毒を行い、使い捨て手袋を装着して作業する。

◆美術、大道具に関して

- ・撮影で使用する美術品、大道具、小道具はみだりに触れないようにする。

◆エキストラに関して

- ・エキストラの待機場所は、2メートルの社会的距離を確保できる広い場所を確保し、マスクの着用、入出時のアルコール消毒を徹底する。

◆ロケ地担当者の立ち会いに関して

- ・屋内での撮影の場合、ロケ地責任者1名に限る。
- ・屋外での撮影の場合、ロケ地責任者1名含めその他担当者とで2メートルの社会的距離を確保する。
- ・監督モニター、記録係等のベース設置場所に関しては、4メートル四方の中に1人となるように要請する。

◆食事に関して

- ・現地でのロケ弁手配の場合、依頼店舗の新型コロナウイルス感染症予防対策ガイドラインを確認して制作者と共有する。
- ・食事休憩は制作スタッフとロケ地担当者と時間をずらしてとる。
- ・ケータリングの提供、及び現地特産品の差し入れ提供は当面控える。
- ・食事をしながらの打ち合わせや会話は控える。

◆差し入れ、炊き出しに関して

- ・差し入れ、炊き出しは、ロケ責任者と協議のうえで決定する。
- ・差し入れ品、炊き出し品は、原則個別包装したものとする。
- ・参加者の14日前の行動記録・参加期間中の体調記録を管理する。
- ・扱う参加者は、事前に手洗いや手指消毒を済ませ、マスクと手袋を着用する。
- ・差し入れ、炊き出し品の取り分けは原則1名が行い、みだりに触れないように対策を講じる。

④感染者発生時

◆感染者に関して

- ・感染症が確認されたら速やかに隔離等を行い、感染者は他人との接触を避ける。
- ・指定医療機関へ連絡のうえ指示に従う。
- ・感染者が触れた物は消毒する。

◆保健所との関係に関して

- ・管轄の保健所へも連絡し、指示を受ける。

以上

◆撮影隊 新型コロナウイルス感染予防マニュアル◆

撮影隊による本マニュアルは、映画・ドラマ・CM・バラエティー等、様々な映像作品ジャンルにおいて、新型コロナウイルス感染症予防の対策として掲げている項目の一部を取りまとめたものですのでご参照ください。

映像製作にあたっての方針

『スタッフ・出演者の心身の健康を守ることが、良質な作品とロケ地の安全につながる！』

【共通認識として】

1. これまでの慣習は忘れ「関わる全ての人の健康を守る」ことを最優先とする。

今までの慣習にこだわることなく、新しいコミュニケーションの取り方を考える事。

マスクの着用、フェイスガードの着用、手洗い、検温、消毒等の予防対策は確実に実施するとともに、これまで行われていた『お祓い』『顔合わせ』『打ち上げ』『見送り』『全体ロケハン』などの儀式としての側面が大きいものは原則すべて中止とする。

【撮影に関する注意事項】

◆社会的な配慮：密集を避ける

現場の感染予防対策を実施するとともに、一般の見学者が密集するような環境でロケを行わない。また、スタッフ間で部署ごとに色別ジャンパーを着用し、現場内での立ち入りエリアを制限する。

◆ボランティアエキストラ依頼禁止

大人数のエキストラを擁するシーンをできるだけ避けた上で、やむを得ないシーンの場合は、撮影地のボランティアによるエキストラ出演は控え、エキストラ会社などに発注する。

【現場に関する注意事項】

◆ケータリングの禁止、および食事時間・場所への配慮

食事は原則個別の弁当提供とし、ケータリングの依頼は禁止。食事時間は2部制をとるなど一度に食事をする人数を減らし複数人で集まって食事することを避ける。また、バスや車両内での移動中の食事も禁止とする。

◆オーディションや打ち合わせのリモート化

対面オーディションや複数人での打ち合わせはリモートで実施する。

◆ロケ隊に感染予防の専門家をスタッフに加え、感染予防対策を講じる。

以上